

令和4年 お茶づくり技術情報 (No.6)

2022年6月7日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 生育と気象

1) 二番茶の萌芽 (茶業試験場内作況調査ほ場)

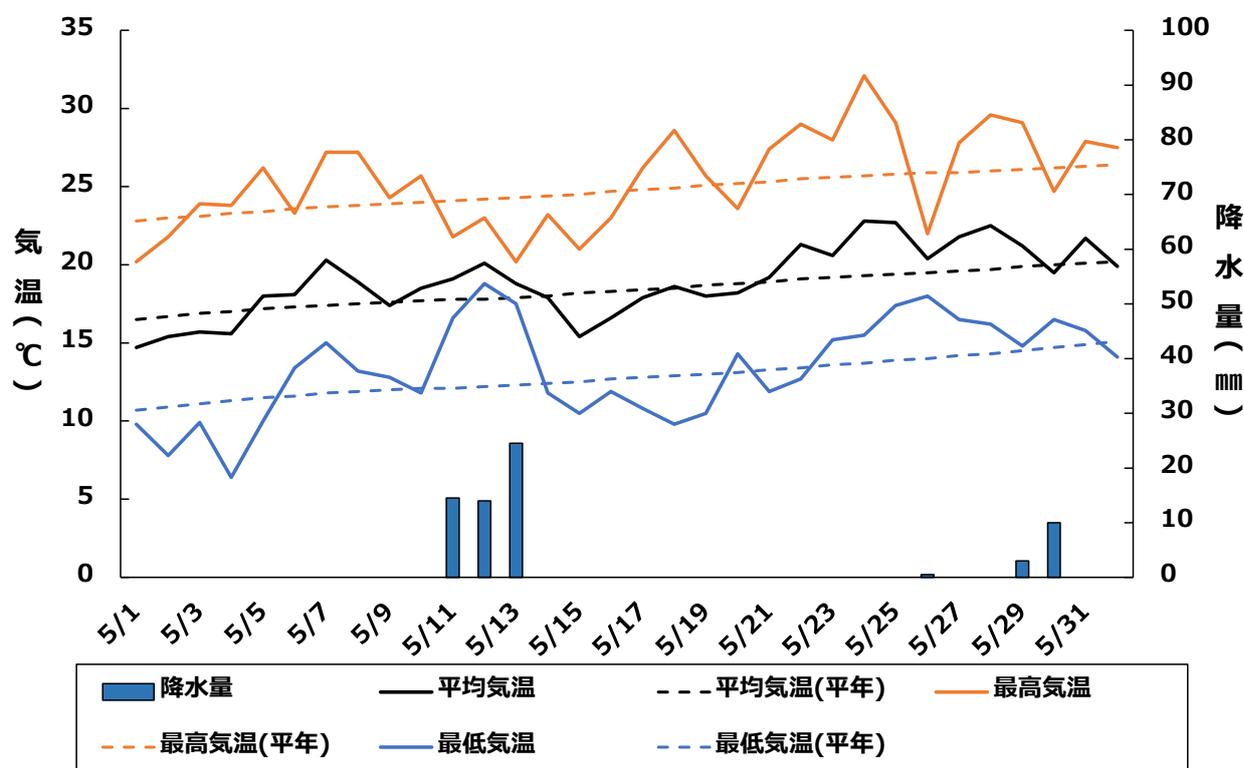
表1 二番茶萌芽期

本年	前年	前4か年平均
5月23日	5月20日	5月23日

注) 品種: やぶきた 樹齢: 21年生

- (1) 茶業試験場内の作況調査園 (定点調査園、品種: やぶきた) において、2022年5月23日に二番茶の萌芽を確認した。本年の萌芽期は、前年 (5月20日) より3日遅く、前4か年平均並だった (表1)。
- (2) 一番茶の摘採 (5月1日) から二番茶萌芽期までの所要日数は22日間で、前年 (25日間) および前4か年平均 (26日間) より早かった。

2) これまでの気象



- (1) 5月の平均気温は、上旬は平年並、中旬~下旬は平年より高かった。
- (2) 降水量は、5月11日~13日および5月29日~30日に降水があったが、5月期間降水量は66.5 mm (平年比28%) と少なかった。

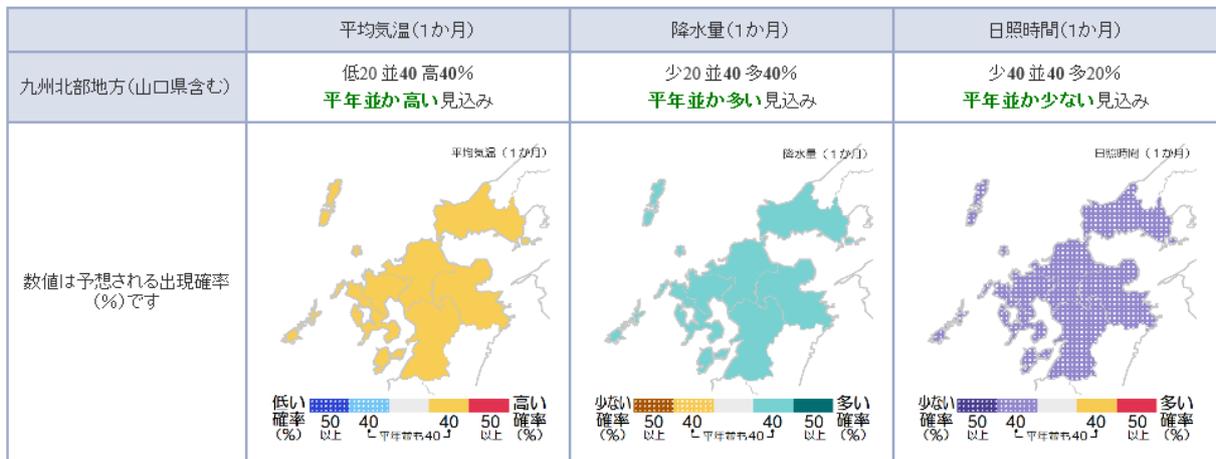
3) 今後の気象の見通し

■ 2週間気温予報 (気象庁、2021年6月2日5:00発表)



- (1) 今後2週間の最高気温は、1週目の前半は高く、後半は平年より低い～並、2週目は平年並となる予報である。
- (2) 今後2週間の最低気温は、1週目は並、2週目は平年より低い～並となる予報となっている。

■ 1か月予報 (気象庁、2021年5月26日発表) (九州北部地方 5/28~6/27)



- (1) 気温は、暖かい空気に覆われやすいためほぼ平年並か高い見込み。
- (2) 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。

2. 今後の管理

1) 二番茶後の整せん枝

(1) 更新 (浅刈り・深刈り)

樹勢の維持向上や樹高の調節を目的として更新を行う場合、樹勢の強い茶園以外は、葉層を残す「浅刈り更新」を基本とする。

■ 浅刈り

- ①前年の秋整枝面より3~4 cm程度深く、古葉を1~2葉残す程度に剪枝する
- ②平坦部で7月上旬頃までに完了する。
- ③病害の発生部を剪除する耕種的防除法としても効果的である。

■深刈り（樹勢が強い茶園）

- ①樹高が高くなり、作業が困難となった場合に行う。
- ②分枝が密集している下位で古葉が残らない程度（二番茶摘採面から 10～20cm 程度）に剪枝する。
- ③強めの更新となるため、平坦部でも 6 月 15 日頃までに行う。
- ④一般的に翌年の収量は更新前の 8 割程度となるが、2 年目以降は回復する場合が多い。

(2) 中切り後の整枝（一番茶後に中切りを行った茶園）

- ①順調に生育している場合、伸長した再生枝の整枝を行う。
- ②中切り後 60～70 日（7 月中下旬頃）、再生枝が 15cm 程度（5～6 葉期）伸びて整枝位置が硬化した時期がよい。
- ③中切り面から 2～3 節（5 cm 程度）上げた位置で行う。
- ④芽伸びが悪い場合は伸びすぎた枝をはねる程度で、無理に深い整枝はしない。

(3) 整せん枝時の注意点

- ①夏季の干ばつや病害虫の被害を受けやすいため、かん水施設等がある場合は、かん水を行い、再生芽の防除を徹底する。
- ②せん枝直後に 30℃以上の高温にあうと再生芽の生育が遅延するため、なるべく高温日を避けて行う。

2) 土壌・肥料

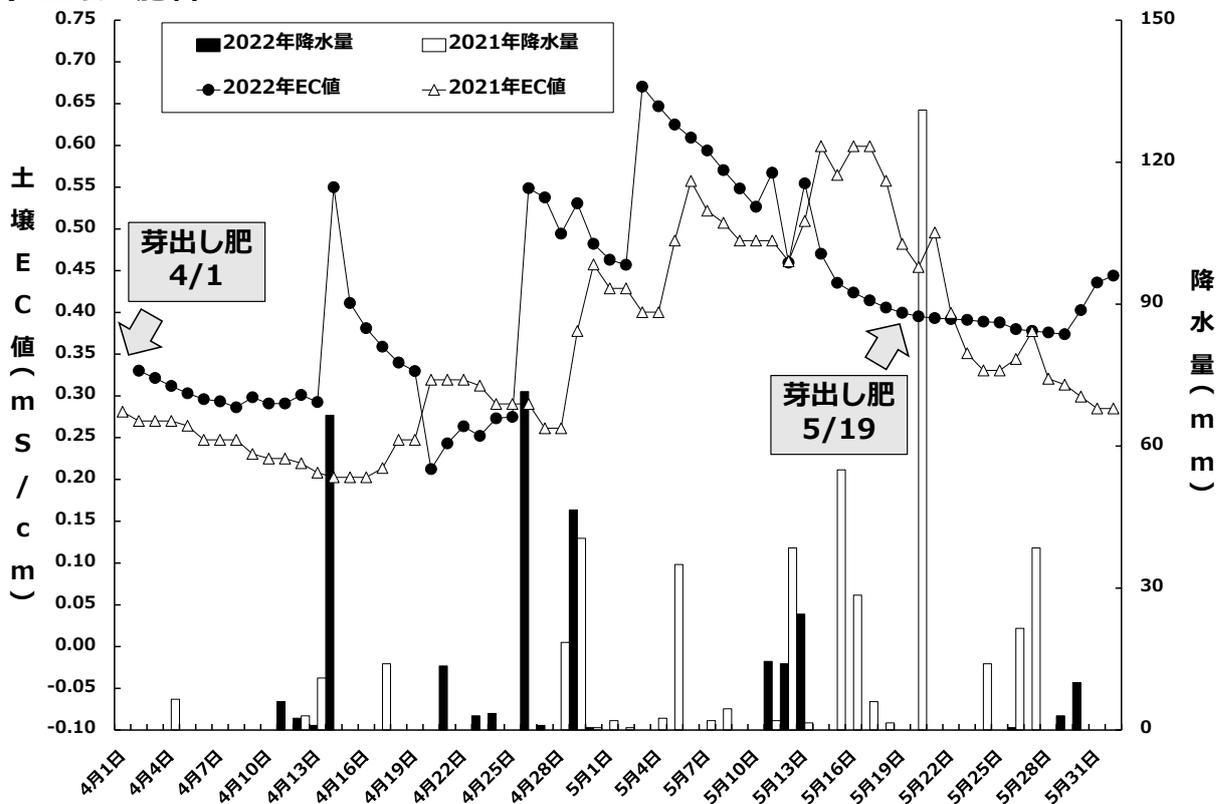


図2 茶試作況調査園における土壌 EC 値の推移

注1) 本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき推定した値を示す

(1) 土壌 EC 値は、4 月下旬のまとまった降雨により上昇した。5 月は降水が少なく、低下傾向であったが、5 月 29～30 日の降雨により上昇した。

3) 病害虫発生状況（茶業試験場内）

病害虫防除の詳細については、「令和 4 年度佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき」を参照してください。

URL : <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321964/index.html>



6 月 1 日～8 月 31 日の 3 か月間は農薬危害防止運動期間です。

農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。